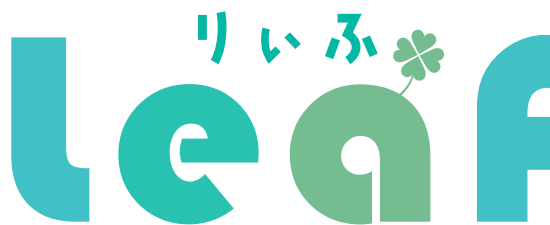


常磐病院
地域連携だより



2026年7月31日発行

TOKIWAKAI GROUP
Jyoban Hospital

Vol.96

<https://www.tokiwa.or.jp/leaf/>

July 2026

TAKE FREE



GENERAL MEDICINE

「専門と総合をつなぐ」常磐病院 総合診療チーム本格始動

地域医療の未来を支える 総合診療

2025年、常磐病院では総合診療チームを立ち上げました。人口減少と高齢化が進むいわき市の医療現場では、一人の患者さんが複数の疾患を抱えることが当たり前になっていきます。専門分化だけでは支えきれない医療ニーズが増え、特定の診療科だけでは対応の難しい患者さんも増えています。

地域に求められる役割を改めて見直した結果、「専門診療科の隙間を埋める診療体制」が必要であると考え、総合診療チームの発足に踏み切りました。

現在は院長の新村以下、内科医や研修医が一体となり、誤嚥性肺炎、尿路感染症、心不全、脳梗塞の管理など、幅広く内科系疾患の診療にあたっています。

私たちは今後さらに、総合診療チームを通じて専門医療と地域医療をつなぐ役割を果たしていきます。

「専門と総合をつなぐ」
常磐病院・総合診療チーム本格始動しました！



公益財団法人ときわ会
常磐病院

院長 新村 浩明

日本泌尿器科学会 専門医、指導医
日本透析医学会 専門医、指導医
日本臨床腎移植学会 認定医
日本核医学会 PET核医学認定医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会
泌尿器腹腔鏡技術認定医
日本内視鏡外科学会 技術認定医

たしたいと考えています。

「断らない」医療を実践 地域の受け皿として

総合診療チームの特徴は、「断らない」姿勢を徹底していることです。昨年度2000台の救急車受け入れを達成した救急センターや外来とも連携し、「まず受け入れる」ことできる体制を敷いています。

その上で、当院では医療だけでなく、その後の生活も見据えた診療を心掛けています。まず患者さんを受け入れ、診断・治療を行ったのち、必要に応じて専門医療機関や介護・福祉サービスへとつなげます。

(次のページへ)



救急患者の対応をする堀田医師

ときわ会常磐病院では、地域の医療施設・介護施設との連携を強化するため、当院の最新の医療情報を定期的にお知らせしております。



公益財団法人

ときわ会
TOKIWAKAI GROUP

常磐病院
Jyoban Hospital

毎週おこなっているカンファレンス



特に高齢患者さんでは、複数の疾患や社会的課題が重なり、紹介先の選定が難しいことも少なくありません。地域の医療機関やケアマネジャー、多職種との連携を重視し、入院直後から退院支援を開始しています。不安を抱える患者さんを、まずは断らず受け止め、必要な医療へと橋渡しを行うこと。そこそこ、これからの地域病院に求められる重要な使命の一つであると考えています。

若手医師を育てる 総合診療プログラムの 立ち上げ

総合診療チームは、研修医教育の面でも大きな役割を果たしています。専門診療科は限られますが、その分、総合診療で多様な患者さんに対応します。感染症、循環器疾患、神経疾患、緩和ケア、また、地域の診療科との連携など、幅広い症例を経

験できることは、若手医師にとって貴重な研鑽の機会となつています。

院長・中堅医師・研修医が協働する「屋根瓦式」の指導体制により、実践的な診療能力を備えた人材を育成しています。

さらに当院では現在、総合診療チームの活動を基盤に、若手教育をいっそう推進する総合診療専門研修プログラム「ちょんまげアロハ常磐病院総合診療」の整備を進めています。

私たちが育てたいのは、単に幅広い疾患を診る医師ではありません。地域に足を運び、人々の声に耳を傾け、多職種や住民の皆さまと協力しながら地域課題の解決に取り組む医師です。

私自身、震災後の地域活動の中で「ちょんまげアロハ」の姿で地域に入り、住民の方々との対話を重ねてきました。当初は驚かれましたが、非常にポジティブに受け入れていただき、皆さまの思いや地域の実情を学ばせていただきました。改めて、医療者が病院に留まるのでは

なく、住民の方々の生活の中دةともに考え、生活に根差した医療を実践することの大切さを実感しています。

救急から在宅まで、 新たな医療のあり方への挑戦

総合診療チームが向かう次の目標は、病院の中だけでなく、地域に出て患者さんを支えることです。

これまで当院は、救急搬送された患者さんや入院加療が必要となった患者さんの診療を中心にやってきました。しかし、高齢化が進む中で患者さんから本当に求められているのは、入院医療だけでなく、退院後も含めた継続的な支援であることを日々実感しています。今後は、総合診療チームを中心に在宅医療にも積極的に取り組んでまいります。

入院中に診療した患者さんを退院後も継続して診療し、必要に応じて自宅や施設へ伺えるよう、地域の先生方や訪問看護師、ケアマネジャーの皆さまとの連携を始めています。

取り組むべきは、患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組み・体制づくりです。そこで従来のように「病院」と「在宅」を分けて考えるのではなく、救急医療から入院医療、退院支援、在宅医療まで一つの流れとして支える新たな医療を目指しています。

最後に―― 地域の先生方へ

常磐病院のこうした理念の原点にあるのは、東日本大震災の経験です。

震災は、医療の役割が病院の中だけでは完結しないことを私たちに教えました。避難や孤立、高齢化の進行など、地域が抱える課題は複雑化しており、病気だけでなく、その人の生活や家族、地域とのつながりまで視野に入れた医療が求められています。

「地域に出る医療」はもちろん、常に地域の声に耳を傾け、柔軟にニーズに応えようとする姿勢こそが、これからの日本の地域医療に必要と考えています。常磐病院は、この理念を受け継ぎながら、いわき・浜通りの未来を支える新しい時代の総合診療医を育成し、安定した総合診療体制を確立してまいります。

地域の先生方におかれまして、

在宅療養中に急性増悪を来した患者さん

● 一時的な入院加療が必要な患者さん

● 退院後の在宅フォローに不安のある患者さん

● 病院と在宅の橋渡しが必要なお患者さん

などにつきまして、ぜひお気軽にご相談いただければ幸いです。



公益財団法人ときわ会 常磐病院 (院長 新村浩明) 地域医療連携課

窓口受付/毎週月曜日～金曜日 8:30～17:00
〒972-8322 福島県いわき市常磐上湯長谷町上/台57番地
TEL:0246-81-5522 / FAX:0246-81-5577

ときわ会常磐病院では、診療科の増加に伴い診察可能な疾患も増えました。患者様のご紹介に関しまして、今後もお気軽にお問い合わせくださいますようよろしくお願いします。